

# 阿南高専における AP 事業の取組状況報告

## -コンピテンシー育成と学修成果の可視化-

松本 高志、小松実、山田耕太郎、川畑成之、一之瀬元喜、菊池弥生  
(阿南工業高等専門学校)

### 1. はじめに

阿南工業高等専門学校(以下、阿南高専という)では、平成 26 年度文部科学省大学教育再生加速プログラムに採択されたことから学修成果の可視化についての取り組みを始め、特にこれまであまり例のない社会人力・人間力の可視化について検討している。本事業では、学修到達目標の達成をめざし、ラーニング・ポートフォリオ(以下、LP という)を活用した学修時間の確保、により、学生の自発的な学修動機づけにつなげる。また、社会から要望の強い社会人力、人間力の評価指標を独自に開発し、その獲得能力を可視化し学生自身の成長を客観的に把握して自身のキャリア形成につなげる。学生が知的かつ人間として総合的に成長できる仕組みを構築するものである。本稿では取組の 2 年目における進捗状況を報告する。

### 2. これまでの取組実績

阿南高専では、10 年以上前から授業評価アンケートや教員の相互授業参観等の基本的な教育改善活動に取り組んできた。また、全教員が参加する教員研修会は年に 2 回開催しており、教育改善活動に熱心な土壌が醸成されている。そして、平成 22 年度文部科学省大学教育推進プログラムに採択され、新たな教育改善の取組としてティーチング・ポートフォリオ(以下、TP という)作成ワークショップと教学 IR を推進した。TP の成果としては、平成 24 年度までに教員の 80%が TP 作成ワークショップに参加して TP を作成した。IR の成果としては、それまでなかった入学前の学習状況を確認する新入生アンケート、在学生の生活全般や学習状況を確認する学生生活実態調査、卒業次の到達度・満足度を確認する卒業次アンケートを導入し、データを蓄積するとともに、

全教員が参加する教員研修会において、どのようなデータを分析できるかについて情報共有した。

### 3. 新たな取組

大学教育推進プログラムにおいて築いた特徴ある FD 活動の実績をもとに、大学教育再生加速プログラムにおいては、全学で共通の学習管理システム(LMS)を導入し、ICT 活用教育の基盤として授業外学習時間の確保を目指している。また、学生生活において獲得するコンピテンシー、いわゆる社会人力・人間力を可視化することで将来のキャリア意識の醸成を行っている。図 1 に大学教育再生加速プログラム取組概要を示す。

#### 3-1 学習ポートフォリオの活用

阿南高専の大半の教員は自身の教育活動の振り返りを通して TP を作成しており、学生に振り返りを通して目標設定やその達成状況を確認し、ポートフォリオ指導をすることは難しくないと考えている。平成 26 年度前期にはほぼ全学生が LMS 上で年度の目標を設定している。本年度は導入年であることからシンプルな 3 つの項目として学習、生活、キャリアについて目標設定した。年度末には学生が設定した目標の達成度について自己評価できるフォーマットを LMS 上に準備している。LMS はクラウド型なので、学生はネットワーク環境があればどこからでも活用できる。また、スマートフォンや従来型ケータイからもアクセスが可能であり、学生の利便性は高い。LMS のドリル機能を使って多数の演習問題を準備している。各々の教員が保有している演習課題を LMS に載せたり、国家試験問題を演習課題や宿題として準備したりしている。また、記述式の課題提出については図書館の PC にスキャナーを接続して準備し、誰でも LMS へ紙ベースのレポ

ートを提出できるようにしている。これらの利便性向上と学生への動機づけにより授業外学習時間の増加につなげたい。

### 3-1 社会人力・人間力の可視化

国立高専機構が推進しているモデルコアカリキュラムに記載されている分野横断的能力を備えるために、様々な取り組みを行っている。モデルコアカリキュラムに記載されている技術者が備えるべき分野横断的能力は12種類のスキルから構成されており、5つの汎用的技能(「コミュニケーション」、「合意形成」、「情報収集・活用・発信力」、「課題発見」、「論理的思考力」)と7つの態度・志向性(「主体性」、「自己管理能力」、「責任感」、「チームワーク」、「リーダーシップ」、「倫理観」、「未来志向性・キャリアデザイン」)に分類される<sup>(1)</sup>。これら12種類の能力とは、いわゆる人間力・社会人力と言われる能力を指す。これらを授業の中ですべて評価するのは困難なため、ステークホルダーのひとつである学生が就職する企業に対し企業が求めるスキルについてアンケート調査を行い、6つの重要なスキルを決定した。そして、評価を実施するためのルーブリックを作成し、全教員の参加する教員研修会において、自

身の担当科目においてどのスキルを評価できるかについてワークシートに記入しながら検討した。平成27年度後期には12科目でプロトタイプのルーブリックを用いて社会人力・人間力に関する評価を試行し、評価方法およびルーブリックを改善していく予定である。また、ベネッセの学生調査を全学で実施し、学生全体の成長感等を分析した。この結果は、学生が本年度の目標を設定する際の参考資料としても活用した。

### 4. おわりに

今回は新たな取組としての学習ポートフォリオの活用と社会人力・人間力の可視化についての取組の進展状況について報告した。今後は、LMS活用率を上げ、効果的な学習ポートフォリオの活用推進を図り、そのショーケースをいかに作成させるか、また正課授業においてすべてのスキル育成に対応できるか、そして授業外活動をどのように評価するかが課題である。

### 参考文献

- (1) 独立行政法人 国立高等専門学校機構『モデルコアカリキュラム(試案)』2012年3月。

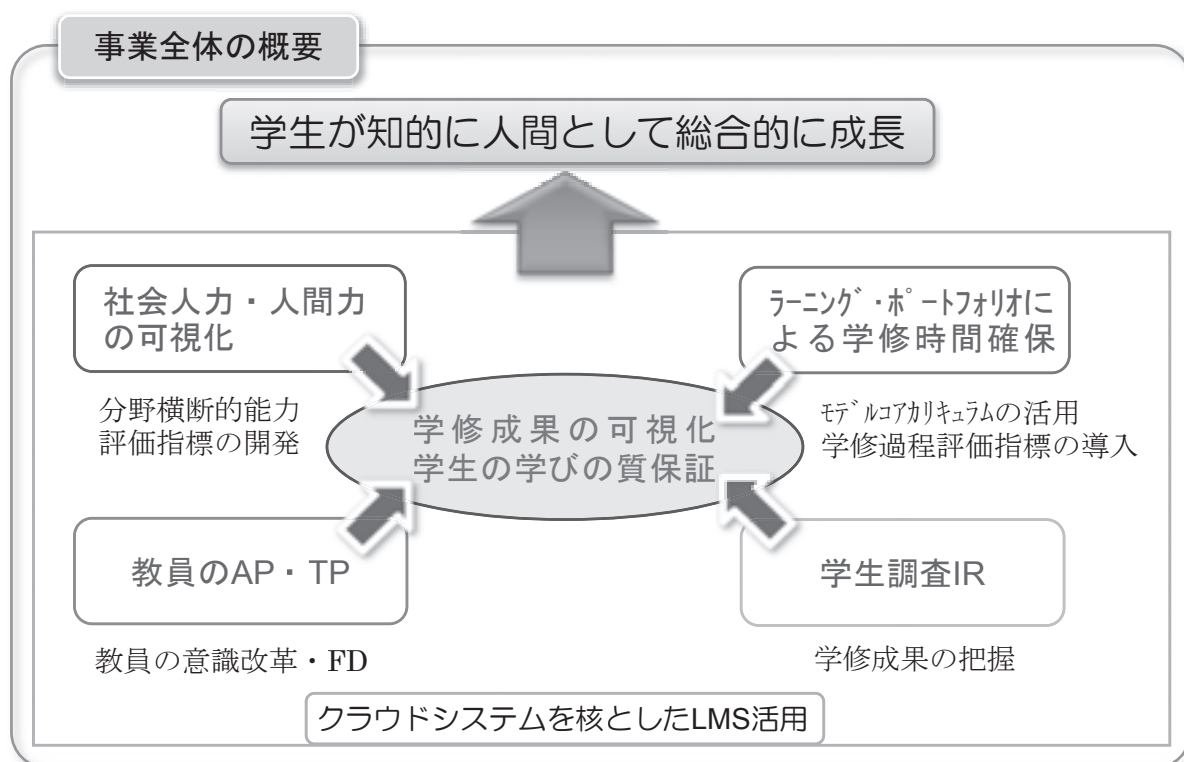


図1 取組の概念図